

## 百花繚乱・プロジェクト報告会

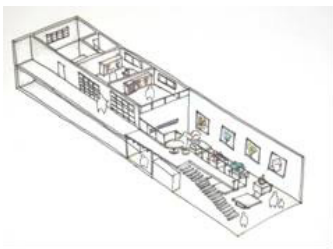
11・18 研究室会議で年度中間成果を発表

11月18日(金)、新学期第3回目の研究室会議は、「みなとまちづくりに関する研究」(阪口M2・研究発表)に次いで、各プロジェクトの中間成果報告会となった。発表は順に、喜多方(早坂M1)、鞆の浦(江口M1)、イタリア・ワークショップ(楊・鄭M1)、読書会(坂内M1)、八尾(三沢M1)、大野村(竹山M1)、都市デザイン研究部(鈴木M1)、京浜臨海(柴田M1)の8チーム。オール・パワーポイントで彩られた発表は、ふだんの研究発表主体の研究室会議とは少し違った、和やか、華やかな空気に包まれた。

### 喜多方―「学び会い」からプランへ

2006年1月に合併を控え、現在、喜多方市は「これからの喜多方」を考える上で最も重要な局面を迎えている。我々は喜多方市全体のプランを作ることを目標として調査・研究会を重ねてきた。11月のシンポジウム「学び会い」や12月に予定されている「商店主意向調査」などの成果を盛り込んだ、より質の高いプランを作るため現在活動中である。

#### 提案準備の夜



### <第2回「東北まちづくり学び会い」> (11/11~13)

今年度の「学び会い」では、まず最初の2日間+αで、喜多方に実在する空き店舗・空蔵に対する提案を作りました。チーム編成を東北各地でまちづくり活動を実際に行う学生(東北芸術工科大学・日大)と、実際に喜多方でまちづくりを行っている学生(東大)の混合チームとすることにより、斬新で、より現実的な提案を作ることができました。

最終日には、地元住民や行政など100人にも及ぶ参加者の前で「各学校の各地での取り組み」と「提案」の発表を行いました。それらに対して、学生・住民・行政・専門家が入り交じり熱い議論が交わされ、民官学が互いに「学び会い」ました。(M1 早坂勝一)



- (上) 空き店舗となっているきものやの再生提案  
(下) 「学び会い」風景

### ■■忘年会、今年は鳳明館森川別館で■■

多数のOBOGも交えて、深夜、早朝まで続く毎年恒例の都市デザイン研究室忘年会ですが、今年度も下記の要領で、実施することになりました。都市デザイン研マガジン愛読者の皆様の積極的な参加をお待ちしています。

◆日時 2005年12月15日(木) 19時30分スタート

◆場所 鳳明館森川別館 ※いつもの本館とは別の建物です。お気をつけ下さい。  
(文京区本郷6-23-5 03-3811-8171)

◆費用 一人5000円程度を予定

◆問い合わせ先 幹事・竹山奈未(M1、研究室03-5841-6224)

※別途、メールにて、ご案内差し上げます。

## 八尾—旧町へ転戦、最終報告・提案に向けて待ったなし



昨年度関わった駅前の福島地区から、今年度は河岸段丘上に今も残る伝統的な街並みと壮大な石垣が魅力の旧町に進出、福島地区からの玄関口である西町地区を中心に、地域づくり提案を中島助手、岡村D2はじめのべ10名で作成中。現在全戸アンケート調査を含めた4回の調査と中間報告会を終え、計画を再考中である。

### <西町フォーラム> (10/26~30)

公民館で地元の人を前にプレゼン

26日に西村先生の講演と併せて地域づくり提案の中間報告を、30日にいくつかの提案の実験と各提案の詳細な説明を行った。26日以降は公民館にパネルを展示した。一般の住民の方々に対しての提案発表は今年度初めて。実験により、提案が住民の方々に対して分かりやすくなり評価された一方で、提案の内容や啓蒙活動など、改善すべき課題は多い。

中間報告を終え提案を再構築する今の時期、参加する学生一人一人がプロジェクトや研究に対する各々の目的を再確認してから最終報告に臨むべきだと自戒を含め考えている。

(M2 田辺康弘)



## 鞆の浦—空き家「まち博」成功が拓くこれから

今年度メインの活動は、伝建地区を対象とした「空き家調査」。最新の空き家実態を、住宅地図などの文献と現地調査から把握した。その上で夏休みに、空き家の持ち主にアンケート調査を実施。アンケート用紙を一枚一枚訪問手渡しして、今後の空き家利用の意向などを問うた。得られた結果を生かして今後どう活動を展開してゆくかが問われる。

(右) ライトアップされた常夜灯



### <鞆まちづくり博覧会> (11/4~6)

おだやかな晴天に恵まれた「鞆まち博」は、初日(金曜日)のテレビ報道のおかげもあって、週末に多くの方が訪れた。会場は、県道に面した、常夜灯への通り突き当たりの空き家。この建物は12月に鯛めし屋としてオープンするため内装工事中であり、正に「空き家再生」が進行する現場を借りての展示となった。展示では、上記アンケート調査結果・空き家再生の事例紹介とインタビュー・空き家利用に関する試案などをまとめた。

また今回は、日大・伊東研との共同開催というかたちを初めて試みた。デザイン研が「まち展示」、伊東研が「みなと展示」と題して、連携・協力。伊東研・毎夏恒例の「雁木ライトアップ」を協働して行った。

(M1 坂内良明)



展示会風景(上)と展示パネルの一部(下)

## ●オギュスタン・ベルク氏特別講義迫る●

- 題目: 「近代コスモス喪失の中の風景」(日本語による講義)
- 日時: 12月5日(月) 12:00~13:00(開場11:45)
- 場所: 工学部14号館1階141講義室 <無料・入場自由>

**編集後記** ベルク氏と本郷界隈を歩く企画の準備が大詰め。その名も「ベルク本郷まちあるき」と題したこのプロジェクト、町別の4チームに分かれての作業が連日連夜続く。先日のリハーサルでは、予定を大幅に超えて寒空のなか4時間の強行軍。内容を洗練強化しつつ行程を半分ほどの時間に圧縮せねばならぬジレンマが明るみになったが、道中買ったケーキに舌鼓をうちながらの反省ミーティングのあとは、一同勇躍作業に戻ったのであった。(坂内)